



## 2022年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年9月2日

上場会社名 ナトコ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4627 URL <http://www.natoco.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 粕谷太一  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 山本豊 TEL 0561-32-2285  
 四半期報告書提出予定日 2022年9月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年10月期第3四半期の連結業績（2021年11月1日～2022年7月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第3四半期	15,257	11.5	1,421	△9.8	1,696	△0.7	1,176	△3.9
2021年10月期第3四半期	13,679	14.8	1,576	70.7	1,707	85.1	1,225	96.5

(注) 包括利益 2022年10月期第3四半期 1,496百万円 (10.9%) 2021年10月期第3四半期 1,348百万円 (191.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年10月期第3四半期	155.99	—
2021年10月期第3四半期	162.41	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第3四半期	27,655	21,681	78.4
2021年10月期	26,280	20,595	78.4

(参考) 自己資本 2022年10月期第3四半期 21,681百万円 2021年10月期 20,595百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期	—	29.00	—	31.00	60.00
2022年10月期	—	24.00	—	—	—
2022年10月期（予想）	—	—	—	26.00	50.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年10月期の連結業績予想（2021年11月1日～2022年10月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,200	6.1	1,730	△14.5	2,020	△8.8	1,400	△14.6	185.55

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2022年9月2日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P 8 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年10月期3Q	8,144,400株	2021年10月期	8,144,400株
② 期末自己株式数	2022年10月期3Q	598,026株	2021年10月期	600,992株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年10月期3Q	7,544,473株	2021年10月期3Q	7,543,421株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年11月1日～2022年7月31日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の防疫と経済の両立への動きが進み、持ち直しが見られたものの、半導体不足やエネルギー及び資源価格の急激な高騰といったサプライチェーンリスクに加え、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動抑制の影響によるインフレ圧力の高まりや供給制約等により、先行きはより一層不透明な状況となっております。

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進み、社会活動における制限緩和が進む中で、持ち直しの動きが見られましたが、変異ウイルスによる感染再拡大、資源価格や原材料価格の高騰、急速な円安の進行により、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは絶えず独創的、革新的な研究と技術力の向上に努め、付加価値の高い製品の開発を行うとともに、社会全体をより良くすることを第一に、環境、品質、機能において常に優れた製品、サービス、情報を提供することに努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,257百万円(前年同期比11.5%増)となりました。利益面では、原材料価格の高騰や物流コストの上昇などの影響を受け、営業利益は1,421百万円(前年同期比9.8%減)、経常利益1,696百万円(前年同期比0.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,176百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①塗料事業

金属用塗料分野では、工作機械、農業機械を中心に機能性塗料や粉体塗料の採用が増え、中国で水性塗料を中心に新規ユーザーの開拓が進んだことで、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。建材用塗料分野では、主力外装建材ユーザーの高耐久商材向けや海外向けの商材が増えたことや内装建材向けの抗ウイルス塗料が順調に増えたことにより、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。セグメント利益は、原材料価格の高騰や物流コストの上昇などの影響を受け、前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、塗料事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は8,962百万円(前年同期比8.2%増)、セグメント利益は773百万円(前年同期比25.7%減)となりました。

#### ②ファインケミカル事業

PCやタブレット等の情報家電向けのコーティング剤の需要が減少したものの、光学フィルム向けのコーティング剤が底堅く推移したことやモビリティ(自動車関連)向けのコーティング剤の需要が旺盛であったことにより、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。セグメント利益は、原材料価格の高騰や物流コストの上昇などの影響を受けたものの、高付加価値製品の販売が伸びたことで、前年同期に比べ増加いたしました。

この結果、ファインケミカル事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は2,696百万円(前年同期比15.4%増)、セグメント利益は1,016百万円(前年同期比41.0%増)となりました。

#### ③シンナー事業

新規ユーザーの獲得や新商材の販売の推進により、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。セグメント利益は、原材料価格などの高騰の影響を受け、前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、シンナー事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は3,598百万円(前年同期比17.7%増)、セグメント利益は185百万円(前年同期比33.8%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は19,029百万円となり、前連結会計年度末に比べ684百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が769百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が832百万円、有価証券が200百万円、原材料及び貯蔵品が134百万円、その他流動資産が129百万円増加したことによるものであります。固定資産は8,625百万円となり、前連結会計年度末に比べ690百万円増加いたしました。これは主に長期預金が673百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は27,655百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,374百万円増加いたしました。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は5,434百万円となり、前連結会計年度末に比べ450百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が268百万円、賞与引当金が119百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が602百万円、その他流動負債が213百万円増加したことによるものであります。固定負債は540百万円となり、前連結会計年度末に比べ161百万円減少いたしました。これは主に役員退職慰労引当金が167百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,974百万円となり、前連結会計年度末に比べ289百万円増加いたしました。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の合計は21,681百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,085百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を1,176百万円計上した一方で、配当金の支払414百万円があったこと、為替換算調整勘定が346百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.4%(前連結会計年度末は78.4%)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、通期業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(2022年9月2日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,832,874	7,063,816
受取手形及び売掛金	5,651,375	6,484,364
電子記録債権	794,853	865,941
有価証券	1,200,000	1,400,000
商品及び製品	1,134,081	1,219,206
仕掛品	35,619	47,280
原材料及び貯蔵品	757,487	892,275
前渡金	11,355	—
その他	934,347	1,064,029
貸倒引当金	△6,058	△6,914
流動資産合計	18,345,935	19,029,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,576,919	3,222,859
機械装置及び運搬具(純額)	1,197,916	1,584,155
土地	1,743,380	1,743,380
その他(純額)	1,374,830	468,415
有形固定資産合計	6,893,046	7,018,811
無形固定資産		
投資その他の資産	320,617	366,418
投資有価証券	446,191	407,741
繰延税金資産	116,129	28,928
長期預金	—	673,050
その他	162,651	131,523
貸倒引当金	△3,777	△686
投資その他の資産合計	721,194	1,240,557
固定資産合計	7,934,858	8,625,786
資産合計	26,280,794	27,655,786
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,302,766	3,905,526
電子記録債務	68,365	108,193
未払法人税等	393,308	124,410
賞与引当金	273,584	154,450
役員賞与引当金	42,300	25,575
その他	902,790	1,115,923
流動負債合計	4,983,114	5,434,079
固定負債		
繰延税金負債	6,987	14,779
役員退職慰労引当金	366,647	199,564
退職給付に係る負債	101,483	93,438
その他	226,860	232,495
固定負債合計	701,978	540,278
負債合計	5,685,093	5,974,358

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,626,340	1,626,340
資本剰余金	3,316,538	3,317,994
利益剰余金	15,349,734	16,111,624
自己株式	△516,339	△513,790
株主資本合計	19,776,273	20,542,167
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	168,342	143,551
為替換算調整勘定	637,620	984,324
退職給付に係る調整累計額	13,463	11,383
その他の包括利益累計額合計	819,426	1,139,259
非支配株主持分	—	—
純資産合計	20,595,700	21,681,427
負債純資産合計	26,280,794	27,655,786

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
売上高	13,679,533	15,257,948
売上原価	9,882,636	11,482,123
売上総利益	3,796,896	3,775,825
販売費及び一般管理費	2,220,547	2,354,322
営業利益	1,576,349	1,421,503
営業外収益		
受取利息	3,082	8,185
受取配当金	12,940	16,206
為替差益	89,624	206,646
物品売却益	23,157	32,634
その他	10,056	11,417
営業外収益合計	138,861	275,091
営業外費用		
支払利息	2	2
売上割引	7,794	—
その他	139	461
営業外費用合計	7,936	464
経常利益	1,707,273	1,696,130
特別利益		
固定資産売却益	1,799	3,166
補助金収入	16,713	800
保険解約返戻金	—	28,608
特別利益合計	18,513	32,575
特別損失		
固定資産処分損	7,353	19,021
固定資産圧縮損	9,333	800
特別損失合計	16,687	19,821
税金等調整前四半期純利益	1,709,099	1,708,883
法人税、住民税及び事業税	437,990	421,074
法人税等調整額	46,002	110,961
法人税等合計	483,993	532,035
四半期純利益	1,225,106	1,176,848
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,225,106	1,176,848



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	1,225,106	1,176,848
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,452	△24,790
為替換算調整勘定	125,179	346,704
退職給付に係る調整額	3,137	△2,080
その他の包括利益合計	123,865	319,833
四半期包括利益	1,348,971	1,496,681
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,348,971	1,496,681
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来は営業外費用に計上しておりました売上割引については、売上高から減額しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,412千円減少し、売上総利益及び営業利益は8,412千円それぞれ減少しておりますが、営業外費用も8,412千円減少したため、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	塗料事業	ファインケ ミカル事業	シンナー事 業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	8,284,446	2,336,983	3,058,102	13,679,533	—	13,679,533
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,046	—	204,605	216,651	△216,651	—
計	8,296,493	2,336,983	3,262,707	13,896,184	△216,651	13,679,533
セグメント利益	1,041,510	720,585	280,263	2,042,359	△466,010	1,576,349

(注) 1. セグメント利益の調整額△466,010千円は、セグメント間取引消去17,702千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△483,712千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	塗料事業	ファインケ ミカル事業	シンナー事 業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	8,962,966	2,696,628	3,598,353	15,257,948	—	15,257,948
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,001	—	227,577	238,579	△238,579	—
計	8,973,968	2,696,628	3,825,930	15,496,527	△238,579	15,257,948
セグメント利益	773,859	1,016,235	185,652	1,975,747	△554,243	1,421,503

(注) 1. セグメント利益の調整額△554,243千円は、セグメント間取引消去9,940千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△564,184千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。当該変更により、従来の方法によった場合と比較し、当第3四半期連結累計期間の塗料事業の売上高は8,165千円減少、セグメント利益は8,165千円減少し、シンナー事業の売上高は247千円減少、セグメント利益は247千円減少しております。